

○活動のために準備した道具、環境設定

マス目ボード（8×8）、磁石付カード（青●、緑▲、赤■、女の子、男の子、公園）

記録用紙、マジック

幼児の様子 ① A 児・K 児 ② S 児・R 児	講師の援助	教師の援助
・ほとんどの2人組で、早く立った幼児が材料を取りに行くが、中にはジャンケンで決めるチームもある。 ・カゴの中にカードを出す。 ・①チームは見付けられないうちに次の話に進む。 ・マスの中でなく上に置くということの理解が難しいチームがある。 ・①チームは上から3つめ右から4つめがわからない。 担任の援助でK児がカードを置く。A児の手を遮る。 ・①チームは矢印カードの取り合いを	・2人組のどちらかの人が材料を取りに来るように伝える。 ・ひらがなの「うえ」カードを見付けるように声をかける。 「うえってこういうのだよ」と見本を見せる。マス目の上に置くように指示をする。 ・「した」って地面に近い方だよ。探せる？」と具体的に知らせる。 ・「今日は右とか左とか確認しながらやります」 ・色のカードを探して指定された場所に置くことを知らせる。 ・①チームなど、まだできていないが先に進んでいく。 ・矢印のカードを置き、違う順番でゴールを目指すことを伝える。「好きな順番で良いよ」 「どれくらいできるかな」 ・ゴールが無いことに気づき、「ごめんごめんゴールがなかった」女の子のカードとゴールのカードを探して置く位置を伝える。「それが出来たら始めよう」	・講師の見本を見るように声をかけたりカードに気付かせたり個別に声をかけていく。 ・各チームを回り、様子に合わせて援助していく。 ・「右は廊下の方だね」と知らせる。 ・教師は①チームに個別に一緒にマス目を数えて援助する。

する。カードが全て裏返しだったため表にして矢印カードを探す。 ・②チームは二人それぞれが矢印カードをまとめて手にもつ。交代で置いていく。できたら記録する。次にやることが分かってどんどん行う。「違うやつやろう」「もっと早く行ける考えしよう」となりのチームを見て「早いな」と比べる。 「今度横」「下」と声をかけあって進む。 ・①チームは1種類できると「先生できた」と近くの教師に伝える。 1番目から間違って3番目の場所に違う色で記入する。 講師に指導されながらK児は形はすべて○で記入。色だけ変えている。 A児が終わっていないうちに書き終わったK児は矢印を片付ける。 ・教師が指で矢印をたどると「青?」「○でいい?」など教師に聞きながら記録していく。 ・①チームは矢印片付けて次の順路を決める時に赤青緑も片付けてしまい、また見本を見ながら置く。左から3番目などが自分たちだけでは難しい。3パターンできた。 ・②チームは「矢印26でできたな」「ギリギリだな、28こある」等矢印の数も意識しながら進めている。6パターンできている。 ・②チームは表を見て、最後のパターンを考える。「最初が少ないのは青か」「青の次緑」「行かない」「赤に行かない」など悩んで終わる。 ・全員片付けて挨拶をする。	・①チームの間違いに気付く。 「Kちゃん、どういう順番できたかな」1番目で赤、など1つ1つたどりながら知らせる。 「これ書ける?緑で書こうか?」 K児が書き終わると離れる。 ・記録が終わった幼児に「次どうする?」「今赤から通ったよね」「今度はどの道からいく?」など声をかけていく。 ・終わりの時間を伝える。 ・「やり方をよく覚えていて上手にできたね」と認め、終わる。	・教師は「じゃあ書いてごらん」と見守る。 ・A児が分からなくなったので指を差しながら色を伝え記入の援助をする。 ・②チームが矢印の数も意識していることを認め「すごいね、次はどうかな」など意識づける。 ・②チームが最後のパターンで前と同じになりそうなので気付かせる。 ・「行けた所まで書くと良いよ」と知らせる。
---	--	--

○振り返り

- ・①チームは色の認識と形の認識など個別に援助が必要である。指導教員だけでなく担任やその他の教員の援助があって活動を楽しんでいる。
- ・年中児では①チームの他にも形の認識や記録が難しいチームが見られた。形はすべて○で色の違いだけ記録していけば、年中児でも多くのパターンを時間内に考えだすことは可能であると思われた。時間内に終わらない活動なので達成感や満足感は得られないまま活動が終わっている。
- ・②チームは活動の趣旨を理解し、自分から興味をもって進めている。
- ・②チームはルートの違いのパターンを考えるだけでなく矢印の数も意識して最短距離を考えている。個人差が大きいので、クラス毎に行うのではなく、何回か経験した後は習熟度別で行うのも一考である。

